

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400907		
法人名	さくらコミュニティサービス		
事業所名	満快のふる郷さくら発寒 (1階ユニット)		
所在地	札幌市西区発寒6条14丁目17-33		
自己評価作成日	平成 27年3月5日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvoyoCd=0170400907-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念の6つの誓いを実践することで、入居者様の主体性を尊重したその人らしく生活できるよう支援を行っており、入居者様の希望に沿った生活ができるよう取り組んでいる。
「六つの誓い」

1. 人生の大先輩に対して、尊敬と敬意をはらい、生きていくお手伝いを心からさせていただきます。
2. 一人ひとりの主体性を尊重し、真剣に向き合ったケアを行います。
3. 一瞬一瞬が、その方にとってかけがえのない人生であるから、今この時を大切にします。
4. 残された力を見出し、真の喜びと自信が持てる生活の実現を目指します。
5. 自由にその方らしく過ごしていただくために、言葉や行動による抑制は一切いたしません。
6. 地域の一員として、積極的に地域と交流し、理解を深めていただくための架け橋となります。

ボランティアによる犬のアニマルセラピーの試みは大きな成果を挙げました。今後も地域の協力を得ながら、利用者の感情に働きかけるふれあいの機会やレクリエーションを企画・実行していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内の栗や桜の木の四季の様子が窓から見れる環境に恵まれた地にある。春はさくら祭り、秋には栗拾い・栗剥きをして栗ごはんなどを作って楽しんでいる。栗拾いを一手に引き受ける利用者がいる。クラシック好きの利用者を子供が東京から出張して来るつど、担当職員がコンサートに介助・同行している。肺がんで余命一年と宣告された利用者にも、もう一度故郷の余市を見せたいと職員間でドライブを計画したが、体調が急に悪化したため実現しなかった。医師、家族、職員が見守る中で穏やかに最期を迎え、家族に大変感謝された。看取りを3度経験している。利用者の願いをくみ取って、別のグループホームで暮らす夫とともに、利用者を同行して久しぶりの面会を実現した。また、全介助歩行の利用者が、職員の支援で徐々に歩行器使用、介助付自力歩行へ向上していく様子を、遠方の家族に動画の実況中継で知らせた。利用者・家族の意向と満足度を第一に、職員で話し合いながら、努力と工夫を欠かさない事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	6項目ある事業所の理念を、1項目ごとに月間目標を立てて取り組むことで、ホーム全体で理念の再認識を行った。	「地域の一員として、積極的に交流する」などの運営理念を掲げ、見やすい所に貼りだして、会議や個々のケアに実践している。理念を具体化、月間目標にして達成に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事への参加・地域小学校行事の観覧招待・児童会館行事の定期交流など、年回で恒例になっている。近隣との顔馴染みの関係もあり、地域とのつながりを大切にしている。	地域の新年会・秋祭り、児童館の七夕やアイスキャンドルに参加している。また、事業所の桜祭りや敬老会に地域住民が訪れて、一緒に民謡を歌ったり、飲食するなど相互の交流をしている。	小学生や幼稚園児と一緒にレクリエーションをしたり、教えたり、教えられたりしながら時を過ごす機会を設け、地域の一員として地域と積極的に交流しながら、利用者の自信と生き生きとした暮らしに繋げることを期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護実習生などのボランティアを継続的に受入れて、認知症介護のあり方と支援の方法を体験してもらい、お伝えしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議の開催で、地域や家族との意見・情報の交換を行い、その後に活動に活かすことができている。	年に6回開催、町内会、家族、地域包括支援センター、民生委員、利用者などが参加して、各種の報告の他、避難訓練で浮かびあがった問題点などを議題にして、意見や提案をもらってサービス向上に活かしている。詳細な議事録を作成している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム長が窓口となって市町村との協力関係作りに取り組んでいる。	介護認定の更新時や生活保護に関する手続きで区役所に出向き、出来るだけ相談や会話を交わすようにして、情報を交換しながら、各担当者と密接な関係を作っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修の参加・内部勉強会などで、職員の理解を高める取り組みを行っている。身体拘束11ヶ条を見やすい場所に掲示し、認識不足から不適切なケアに至らないよう、常に確認できている。	運営理念である「言葉や行動による抑制を一切しない、自由な暮らし」を実現するため、「身体拘束にあたる11の行為」を定めて貼りだして、会議で確認しながら、ケアの実践で互いに注意している。利用者が外に出たときは、見守りで確認して、話をしながら満足するまで寄り添っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加・内部勉強会などで、職員の理解を高める取り組みを行っている。無意識の不適切ケアに至らないよう、職員間のコミュニケーションと声かけを大切にしている。			

満快のふる郷さくら発寒（1階ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など利用者の権利擁護に関する社内研修を開いている。職員が実際に活用できる理解としては浅いため、今後職員個人が自主的に学ぶことも必要と考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新入居者受け入れ時など、ホーム長が主体で行っている。役職者も、大まかな内容を把握するために契約時に同席している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別的質問や意見自由記入欄のあるアンケートをご家族にお送りして調査を行い、その中で出た具体的な意見・要望に対して、改善に向けた取り組みを行った。	家族の意見・要望を引き出すことを目標に掲げて、通信で家族に事業所の様子を知らせて、来訪時には担当職員などが積極的にコミュニケーションを取るようして、信頼関係を築きながら意見、要望を反映させるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週1回の役職者会議で意見を聞く機会を設け、個人面談でも意見を聞くようにしている。月1回の全体会議の中でも、会社・ホームに対する意見・要望・提案を述べられる機会を作っている。	事業所の運営やケア方法の改善に関して、職員間や上下の間で気軽に意見を言うことができる関係が出来ている。尿失禁がある方に、職員で話し合い、小さなパットを装着し安心してもらうことで、トイレでの自立排泄やコンサートへの外出に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を使って、自己目標設定・評価することで、仕事のやりがい・向上心を高められる環境ができています。給与水準・労働時間の整備などに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・リーダー研修・管理者研修、その他のケアに関連する研修を受けられる体制が整っている。社内研修もあり、ケアに関すること以外にも、社会人としての物事の考え方などを学ぶ機会が多くある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のグループホーム管理者連絡会議の研修などに職員と管理者で参加している。		

満快のふる郷さくら発寒（1階ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受け入れユニットの職員が入居前に本人との面会を複数回行い、入居時の不安の軽減と馴染みの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時から困っていることや不安なことについては細かなお話を聞き、こまめに連絡を取り合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・関連機関からの情報交換の中で、ホームでの生活に求めていることを確認し、暫定の介護計画に取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の主体性を尊重したケアを実施し、信頼関係の構築に努めている。職員が知らないことを教えてもらったり、料理の盛り付けや落ち葉拾いなどできることを手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、文書で近況を報告したり、来訪時に直接情報交換するなど、情報の発信と収集に努めている。ご家族の来訪も多くあり、さくら祭りや敬老会など事業所イベントに積極的に参加してもらっている。温泉レクに家族の同行と協力を得た。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人とのつながりは、殆どが来訪が主となっていたが、他ホームに入居中の配偶者との面会が出来るように同行支援を行った。食事や入浴の際には思い出話を伺って、懐かしい気分になって頂いている。	家族の事業所訪問も多い。他ホームに入居中の配偶者と会うことが出来るように職員が同行訪問を行った。馴染みの訪問理容を利用し、理美容に行くことを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	別のユニットを訪問する機会が日常的にあり、ホーム全体が顔なじみになる環境作りと人間関係の構築に努めている。各種のレクリエーションを一緒に行うことで、利用者同士の協力や進行に繋げている。		

満快のふる郷さくら発寒（1階ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の奥様との馴染みが強く、お手紙を頂いたり、退去後でも気軽に来訪しながら相談・支援ができる態勢ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での小さなニーズを取りこぼさないよう、ご本人・ご家族との会話を大切にしながら、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	やりたいこと、食べたいものなど日常の会話の中でくみ取り、叶えることができるように努めている。職員同行で、他ホームで暮らす配偶者との面会やクラシックコンサートに行くことなどが実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	病院や事業所の情報提供や、本人・家族からの情報を参考にしながら把握に努めている。どんな生活歴があって今に至っているかを深く探りながら、ひとりひとりの主体性を尊重したケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できないことより、できることに焦点をあてることで、その人の力を発揮できるケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に対する意識改善を行い、その人らしく暮らせる生活の実現を再検討している。そのためのアセスメント・モニタリングをじっくり密に行える時間の確保も課題に取り組んでいる。	利用者、家族の要望と医師の意見をもとに、アセスメントをし、毎月のユニットカンファレンスで職員間で話し合い、モニタリングを繰り返しながら、介護計画を作成している。見直しは3か月を目途にするが、変更があればそのつど現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りとケース記録が主となっているが、職員間の情報の把握・共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族がいつでも気軽に出入りできる雰囲気作りに努めている。また、遠方のご家族に画像を送信して、利用者の今の様子をお知らせしたことがある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の電気屋、スーパー、コンビニ、床屋を利用している。積極的に地域ボランティアを探し連絡を取って、夕涼みなどの行事に歌や民謡のボランティアに来てもらっている。特に犬と利用者が交流したアニマルセラピーの回は好評を得た。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療との連携がスムーズで、24時間の緊急体制ができています。他科受診や救急時の受け入れ先の紹介などのフォローも受けられ、緊急時も動きやすい。	かかりつけ医は利用者と家族の意志を尊重している。受診は、依頼があれば職員が同行している。提携医による月2回の往診があり、24時間の連絡・受け入れ体制が出来ているほか、緊急時や日々の質問に対応してもらっている。	

満快のふる郷さくら発寒（1階ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、連携先のクリニックの看護師による訪問健康管理を受けている。特変時には電話連絡での情報交換・対応方法の指示を受けるなど、適切な連携がとれている。毎日バイタルチェックを行ない、酸素飽和度を測っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関との連絡を密にし情報が途切れないよう努めている。入退院時の説明には同席するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについての意向を家族から確認し文書をかわしている。終末期には、主治医からも説明と必要に応じて看取りに関する同意を文書で交わしている。医師・家族と連携を取りながら、尊厳ある、穏やかな最期が過ごせるように努めている。過去三度の看取りを経験した。	開設時から11年暮らした方が終末期を迎え、家族の意向で看取りを行った。蒸しタオルでの清拭、大好きなカレーをミキサー食で提供したり、タンが絡んだときはタッピングをした。家族が頻繁に来所、提携医師と電話連絡や往診などでの協力を得て、安らかな死を迎えるまで約3か月間支援をした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	札幌西消防署を招いて救命救急講習の受講や防災訓練を行った。医療とは24時間連携体制をとっており、緊急時の連絡網を整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施。消火器訓練や緊急警報装置の取り扱い方法の周知と、消火器の実演など、体感訓練を行った。	年2回の防災訓練を、一回は夜間を想定して、消防署の指導を得て実施している。同時に消火器と緊急警報装置の使用訓練を行っている。訓練の結果を運営推進会議の議題として、改善に努めている。水や非常食の備蓄をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア理念に基づき人格の尊重とプライバシーの保護に努めている。	「人生の大先輩に対して、尊敬と敬意をはらう」を経営理念として、呼び名や言葉使いが馴れ馴れしくなったり、排泄や入浴でのケアで羞恥心を書しないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自訴の少ない入居者の思いを汲みとるための関わりが出来るように、色々な視点から積極的な関わりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度の高い入居者が多く中で、1人1人のその方らしさ・快適さをチームで検討し、その方ならではの工夫・改善をケアに取り入れる意識が高まっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お正月に女性全員が着物を着て過ごすレクの実施など、女性がおしゃれをする楽しさ・喜び・自信を実感できる取り組みを行った。		

満快のふる郷さくら発寒（1階ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出された物を食べるだけの食事ではなく、作っている場所で下ごしらえや盛り付けを手伝ってもらったり、桜もちを会話をしながら一緒に作って、支え・支え合う環境を大切にしている。	菜園や庭で採れた旬のイチゴやキュウリ、栗を使った料理を作り、職員と楽しく会話をしながら食事をしている。誕生日にはチラン寿司など利用者の好きな料理を提供、外食に出かけ、寿司の出前を取るなど、食事が待ち遠しくなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、摂取量を把握しながら対応している。また、食器・盛り付け・食事形態の工夫により、1人1人に適した食事環境のための支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持は勿論のこと、自歯が残っている方に対しては、自歯を失うことで食生活が変わってしまわないよう、訪問歯科のアドバイスを受けながら念入りな口腔ケアに取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット交換のためのトイレ誘導ではなく、トイレで排泄するための誘導ができるよう、その方のリズムに合わせた支援を行っている。ベッド上でのおむつ交換が主であった方が、昼夜トイレに通う習慣が回復したという成果を、チームで共有することができた。	利用者の様子を敏感に見守り、排泄パターンを把握して、適切な声掛けと誘導によって、トイレでの自立排泄がいつまでも行えるように支援している。ベッドでおむつ交換をしていた利用者が、トイレでの排泄に向上した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝起床時に牛乳を飲むことを習慣としながら、薬のみに頼らない取り組みを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回をめやすに個人の意向や状況に合わせて入浴支援をおこなっている。	週2回を目安に状況や希望に応じられるように対応。入浴後にコーラやスポーツドリンクなど好みの飲み物を用意する。銭湯に出かけることもある。入浴が楽しく、変化に富むように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は大きいサイズのパットを使用することで、睡眠中の交換回数を減らし安眠の妨げとにならないようにしている。また、不眠傾向の方の就寝前のホットドリンクの提供・足浴の実施など、必要に応じて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬情を確認できるようにしている。変更があった時は連絡ノートや申し送り等で周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性入居者は家事作業を中心に役割や楽しみを持ちやすいが、男性利用者は活動に関心が薄いので、介護計画の見直しで、男女問わず力を発揮できるように努めている。おやつレクやランチレクなど様々な楽しみ事を企画・実行している。		

満快のふる郷さくら発寒（1階ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時季に合わせて季節を感じられるような外出を計画し、ホーム内では見られない様々な反応を引き出すことができた。また、外出の計画を一緒に考えることで、入居者のリクエストを取り入れながら、より満足感のある外出を目指している。	日常の散歩や買い物に加えて、円山公園へ外出レク、小樽・銭函へのドライブレクなど季節を感じられるような外出を実施している。計画し、ホーム内では見られない様々な反応を引き出すことができた。また、外出の計画を一緒に考えることで、入居者のリクエストを取り入れながら、より満足感のある外出を目指している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する利用者については、家族と相談の上、所持したり使用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話のやり取りをして頂いている。職員が同行して、他のグループホームで暮らす配偶者のところにお連れして、久しぶりの会話や面会をしてもらった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓以外にもソファや椅子を配置し、気分や状況に合わせて落ち着けるように配慮している。四季に合わせた行事等を行い季節感を味わえるようにしている。	車いすが余裕で移動できる広い居間は、毎日清掃が行われ清潔感があり、温湿度が管理されている居心地良い空間である。行事の写真や俳句などの利用者の作品を飾って、親しみやすい共用スペースになっている。窓から桜や栗の木が眺められ、折々の季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自発的なコミュニケーションが困難な方には、職員が仲介するなどして孤立しないように心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自作の俳句などの作品を飾り、使い慣れた家具や好みの写真等を置き、自宅と同じように落ち着ける環境作りを工夫して支援している。	利用者の個性と自宅との連続性を重視して、馴染みの家具や日用品を持ち込んでもらっている。家族と相談して、居心地良い居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーで引き戸が多く、エレベータもあり車椅子でも館内の移動もしやすい。		